

碧南市子ども・子育て会議 会議録

日時

平成30年6月28日（木）午後2時00分から午後2時55分まで

場所

碧南市文化会館 5階研修室1

出席者及び欠席者

(1) 出席委員

中根潮美、河原厚司、板倉尚子、中根孝明、石川香奈子、永坂好、杉浦範子、杉浦友則（代理：藤井孝夫）、菅原優、田村貴広、内田好洋、塚本有子、栗並えみ、鈴木理絵、大岩みちの（委員兼アドバイザー）

(2) 欠席委員

水野裕子、杉浦龍一、石川陽子、森英司、山田鈴子

(3) 事務局職員

福祉こども部長 岡崎康浩、こども課長 中川英治、こども課指導主事 鈴木悦子、こども課指導保育士 神谷しづえ、こども課課長補佐 石井香代、こども課課長補佐 鈴木善三、こども課育成支援係主査 杉浦早緒里、福祉課発達支援係長 鈴木信恵、健康課課長補佐 中根みはる

傍聴者 2人

議題

- (1) 碧南市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて
- (2) その他
 - ・平成30年度以降の子育て支援施策について
 - ・平成32年度以降の子ども・子育て支援事業計画について

議事要旨

- 1 委員委嘱について（平成30年6月1日付）
- 2 会長の選任について 会長 中根潮美
職務代理者 河原厚司
- 3 あいさつ（中根会長）

4 自己紹介、会議の成立

5 議事

(1) 碧南市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

事務局が資料の通りである旨を説明し、パブリックコメントで意見は出なかったと報告した。委員からの意見・質問は無し。全員挙手により承認された。

(2) その他 平成30年度以降の子育て支援施策について

事務局が資料に基づき、病児保育の開始、保育園設置者の応募、利用者支援事業の開始について説明した。委員より質問・意見があった。

【主な意見・質問】

<A委員>

新設の民間保育園は、今後他にも応募があった場合はどういう選定をするのか。説明会など、来年度の開園へ向けてどのようなスケジュールで進めるのか。

<事務局>

認可手続きについてはこれからだが、平成31年度設置予定。設置者については引続きホームページ上で募集し、問合せがあれば保育の需要量を考えながら対応する。

<A委員>

今回の保育園は設置するということを進め、他に応募があった場合は、比較してどちらかではなく、その時に検討するという事か。

<事務局>

おっしゃる通り。今回の新設保育園は、建設費補助の補正予算が議決されれば建設が進められる。その後、近隣への説明を行い、9月中に認可手続きを行う。

(3) その他 平成32年度以降の子ども・子育て支援事業計画について

事務局が平成32年度以降の新計画のスケジュールを説明した。

【主な意見】

<A委員>

中間見直しについては、色々なニーズの増加などに適切に対応していると思う。幼児保育の無償化は31年10月からなので対応しきれないかもしれないが、無償化によって預かり保育等のニーズが変わってくることもあると思うので、アンケートにはそのあたりを汲み取れるような内容を入れてほしい。碧南の特徴として、今後乳児保育の入所要件が緩和されるという部分でニーズがどう変わっていくのかも汲み取れるような内容にしてほしい。

(4) その他 自由意見

< B委員 >

子どもの言語発達については、会話ができる生活言語能力と、学校で習う学習言語能力は別のものであると言われている。外国がルーツの子や親に対し、小学校入学前にプレスクールのようなものを実施するなど、子がより良く育つために市としてフォローできることがあるとよいと思う。他市ではプレスクールがあり、就学前の子と親が小学校に見学に行くなどしているらしい。

< 事務局 >

平成20年度に始まった友好親善協会ボランティアがやっている日本語教室では、外国人の大人や子どもに日本で生活していくための言葉やルールを学んでもらっている。ボランティアにとっても多文化交流になっている。該当の子がいれば紹介していただければ。

< C委員 >

外国人の子は、多い小学校では50人以上いる。通訳を頼んでいるが、最近ではブラジルが半数、残りはフィリピン、ベトナムなど多国籍化しており、日本語を教える前にどうやって通訳するのか、とても難しい問題だ。少人数指導に加えて外国人対応もあり、教員や時間数が多く必要。逆に日本生まれで日本語中心で育ち、母国語が話せず親と話せない子もいる。全く日本語が話せない高学年の子は、学校へ入る前に友好親善ボランティアの方で世話をしてもらうこともある。

< 大岩委員兼アドバイザー >

この4月から、学校や幼稚園・保育所等の教育指導要領等が施行された。理由は、技術刷新や環境などの変化により、教科書で学んだことだけでは役に立たなくなってきたため。それに加え、子どもをしっかりと教育することがこれからの世の中に役に立つ、と教育にお金をかけるようになった。

乳幼児期から大学まで一貫して、生きる力と言われる3つの柱（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性）を育て続けて行こうという方向。教えるのではなく、遊びの中で自分で獲得していく幼児期を大事にして、小学校以上では自覚的な学びにしようというもの。今の大人は学力主導で育ったが、これからは意欲や豊かな心・人間性に焦点を当てる。

数がどうだということもあるが、大きな目標はみんなが心豊かに育つのを目指していけばよいと思う。育てる側の間人も豊かな気持ちになることが大事、自分もそうなれるように。